

最新技術が法務関連業務をサポートする仕組み

日々の課題を解決



新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、法務サービス業界においても例外はなく、大変動を引き起こしました。

法律事務所や企業の法務部署にとっては、正に今こそがDX（デジタルトランスフォーメーション）を進める時です… この先のためにも。

90%

の調査回答に協力した法務業界のリーダーたちが、2020年におけるビジネスに中程度の深刻な影響があり…



さらに

59%

の業務負荷増加があったと報告しています。

Lawyers On Demand
"At a Crossroads" 2020



67%

の技術法務担当責任者が、生産性の低い業務に忙殺されていると答えています。

Juro and Wilson Sonsini
"The 2020 Tech GC Report"

大企業がテクノロジーに費やす平均支出額:

60万ドル以上

十分なのでしょうか?

CLOC, "2020 State of the Industry Survey"

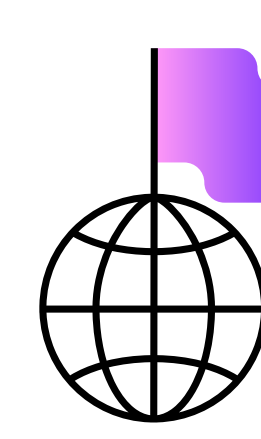
法務部署を支えている三大テクノロジー:

- 1 eビリングと案件管理
- 2 電子署名
- 3 文書管理

CLOC, "2020 State of the Industry Survey"

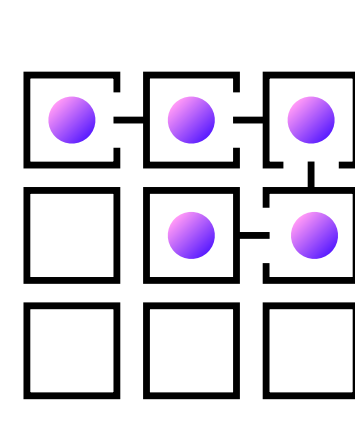


新たなプライオリティ



1

新たなテクノロジーソリューションの実装



2

法務処理の自動化

CLOC, "2020 State of the Industry Survey"

法務関連技術を導入するための重要な要件:

使いやすさ

Juro and Wilson Sonsini "The 2020 Tech GC Report"

DX のニーズ

82%

の企業の法務部署が、連携する法律事務所がテクノロジーをフル活用していることが重要だと考えています。

Wolters Kluwer, "The 2021 Wolters Kluwer Future Ready Lawyer - Moving Beyond the Pandemic"

74%

の企業が、会社の業務やクライアントから依頼された仕事をサポートするために、新たなテクノロジーに投資しています。

36%

以下の企業のみ、主要なテクノロジーや顧客深耕、組織・人員配置の問題という点においては自社が十分に対応できていると考えています。

現在のスマートテクノロジーは、eディスカバリーや、案件管理、文書レビューの迅速化を可能にします。

アドバンスドコグニティブスキル

検索可能な文書形式

自動化された文書理解

機械学習 (ML)

AI

形式を問わない文書の編集と更新

自動化されたバッチ処理

比較、協働、編集

